

若き血に燃ゆるもの

帝キネ時代映畫

原作者 川口松太郎  
脚色並監督者 木村惠吾  
撮影者 中山真雄

主要役割

谷澤禮二 中野英治  
朝倉文男 杉野英治  
美和子 東堂美和子  
美和子の父 川原良  
朝倉の姉 阪東勝代  
朝倉の母 太田仁美  
文男の母 神田敬二  
下宿の爺 木村惠吾  
解説 日活脚本部に在りし木村惠吾氏の帝キネ入社第一回監督作品である。

略筋 城南大學の名遊撃手谷澤は明かで不良で喧嘩好きでその上お洒落なカレッジボーイとして知られてゐた。ある日彼が野球場へ行く途



寫眞 一「若き血に燃ゆるもの」帝キネ木村惠吾  
作品 右より杉野英治、徳川良子、中野英治

中偶然知り合つた美しい女東堂美和子は彼に戀心を湧き立たせた。美和子は谷澤の無二の親友朝倉が死ぬほど愛してゐる女である事を彼は知らなかつた。間もなくすべてを知つた朝倉は獨り淋しく國へ去らうとした時、事情を知つた谷澤は病身な朝倉の爲め自分の戀を諦らめやうと決心し、美和子に對して亂暴者となつた。美和子の悲しみに怒りに轉じ、遂に再び朝倉の胸にかへつた。朝倉は美和子に附添はれて今は病床に在つたが、谷澤の友情を知りさめんと泣き乍らやがては散りゆく自分の命を眺めてゐた。谷澤は何事も忘れ秋の試合の練習に餘念がなかつた。朝倉の病篤さを知つた彼は病床に訪れた。彼の敗戦の復讐を誓つた。遂に雪辱の日は來た。彼の三藝打はよく城南チームを救ひ、遂に復讐は成つた。かくて不思議に命ながらへた朝倉院に淋しく病を養つてゐた。訪倉は湘南の寮れた谷澤は二人の幸福を祈りつゝやがてまた東京へ去つて行つた。